

特集

新国立競技場案を 考える(その3)

クローズライン

継承されてきた

日本の文化の意味を考え、

次世代に伝えるべきは

「伝統的」住まいか、

「ゼロ・エネ住宅」か

加藤秀樹

シリーズ「建築雑誌が目指す役割」①

理屈でなく、直感に響く

いい建築デザインを発信し続けて

『新建築』元編集長・馬場璋造に聞く



兼松絃一郎が巡る

建築家模様 18

時代を経ても褪せない

建築の品格

阪田誠造

建築
最新事情

学校施設特集
建築集

各地域に拠点を置く
設計事務所作品集

明治から変わらない
学校建築の見直しを

柳澤 要

シンポジウム

「新国立競技場のもう1つの可能性」

現国立競技場は十分改修可能

伊東豊雄氏が改修案を提案

改修費は

新国立競技場の半分以下

新国立競技場は

100年持つ

公共スポーツ施設としての

役割と使命を持てるのか

鈴木知幸 元2016年東京オリンピック招致担当課長

オリンピック終了後
どのように活用するのか

新国立競技場の
コンセプトを明確に

後藤健生 サッカージャーナリスト

最大の問題点は

社会的合意の著しい欠如

2020年東京大会は

何を社会に残すのか

日置雅晴 弁護士

日本の文化の本質とは

形よりも、そのものに

ころろが込められていること

栢野俊明 曹洞宗建功寺住職・庭園デザイナー

堀越英嗣 堀越英嗣ARCHITECTS代表





中庭を囲む多目的体育館（左）と昇降室棟（右）の南西側外観夜景



上左 | 体育館 上右 | 生徒ホール 廊下 下左 | 正面外観 下右 | 実習棟西側外観

地域性を表現する木質の校舎

静岡県立 天竜高等学校 | 設計監理：針谷建築事務所

県立天竜林業高校と二俣高校の再編に伴い、既存校舎を改築及び改修し、全体を整備する計画である。天竜地域は全国的にも知られる木材の産地であり、この産業と技術を色濃く表した学校を提案した。

山に近く静かな住宅地に建つことから、外観は端正で落ち着いた構えとし、正門からのアプローチを校舎に近づくにつれて、建物内外に使われた木材への意識が高められていく。玄関・昇降室の大きな開口から木質空間の柔らかさが伝わり、右手には再編前の両校の歴史を刻む「天竜会館」のファサードに地域産材の利用が図られている。

体育館はアリーナ部分を木造（杉集成材）とし、校舎は床・壁・天井・家具等に杉・松を多用した。部材の役割や空間の大きさに応じて材種・形状・断面寸法を選定し、力強さ、繊細さ、面の美しさ、陰影等を意識しながら木質空間の多様な表現を試みた。

実習室への移動が多い生徒の動線を効率的に解決するため、2階の廊下を

円環状に構成し、その四隅に階段を配置した。また生徒昇降所を2階とし、生徒ホール、アリーナを含めて生徒が往来する2階の平面計画が全体の基盤となっている。

屋外においては、正門から延びる軸線を幹として既存校舎との接続性を整理し、かつて駐車場だった中庭は生徒の為の空間として確保した。視線と風の通るピロティと一体的に、生徒の様々な活動に利用されることが期待される。

(北川 言)

所在地	浜松市天竜区二俣町二俣	敷地面積	37,720.59㎡
建築主	静岡県	建築面積	新築：4,000.11㎡ 既存含む：9,068.60㎡
施工	普通教室棟・多目的体育館棟・外構他： 中村建設 実習棟：須山建設 既存改修：杉浦組	延床面積	新築：10,941.31㎡ 既存含む：17,664.44㎡
構造・規模	普通教室棟：S造 地上4階 実習棟：S造 地上3階 多目的体育館棟：W/RC造 地上2階	竣工	2014年3月



中庭外観



普通教室棟南側外観



昇降室棟東南側外観夜景

